

6-1 立面・ファサード計画（景観・外観計画）

施設デザインは、穏やかな山並みと伯太川・吉田川・飯梨川などの川沿いにできた“まち”を原風景として捉え、川のせせらぎや竹林と、綺麗なシルエットの小山のもとに市民の交流と文化の醸成を未来に繋ぐ形として表現する。外壁は基本としてRCの打ち放しとする。ホール上部等壁面のボリュームができるため、壁面に凹凸をつけた構法を用い、縦方向に通ったストライプ状のデザインをモチーフとする。低層部の外壁部等には、杉板型枠のコンクリート打放しを用いてアクセントとする。東面の1階共用部と大ホールホワイエ部にはガラスを用い、建物中の活動が外に表れるようにし、夜にも駐車場・切川バイパス側に明るい光を届ける。

RC打ち放しの壁面と鋼板・石州瓦・ガラスの素材との全体バランスを意識し、ボリュームの持つ水平方向の線に対して、川のせせらぎや竹林をモチーフとしたストライプ状の線で展開する。

